

## 第3次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会 会議概要

### 《会議概略》

日時 平成27年4月27日（月） 13時30分～15時40分

場所 清瀬市コミュニティプラザ 202室

出席 赤川都 岩崎雅美 内山勇 大久保由里 小川和夫 小俣みどり 兼田則子  
木下八重 近藤優美 佐竹治男 田上明 菱沼幹男 丸山安三 麦倉稔

欠席 小山利臣

役職員 森原弘成 土金百合子 波澄守 星野孝彦

### 《内容》

#### 1. 開会

社会福祉協議会事務局長より

#### 2. あいさつ

社会福祉協議会会長より

#### 3. 委嘱状の交付

#### 4. 委員紹介

★ 資料番号1「第3次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会委員名簿」に基づき紹介

#### 5. 第3次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会設置要綱について

★ 資料番号2「第3次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会設置要綱」に基づき説明

#### 6. 委員長及び副委員長の選任

委員 委員長に赤川委員、副委員長に菱沼委員をお願いしたい。

～ その他委員より拍手 ～

異議なしのため委員長に赤川委員、副委員長に菱沼委員に決定する。

#### 7. 委員会の進め方

★ 事務局より資料番号3「委員会の進め方」に基づき説明

委員会の傍聴に関する取り扱い、会議概要の公開、資料の配布に関して説明し、異議なく了承される。

#### 8. 地域福祉活動計画の考え方

★ 副委員長より資料番号5「清瀬市の地域福祉を推進していくために」に基づき、以下のポイントを中心に地域福祉活動計画の考え方を説明

(1) 計画策定の意義

- (2) 生活問題の把握
- (3) 住民座談会
- (4) 専門職アンケート
- (5) 住民による小地域福祉活動の意義
- (6) 地区社協の重要性
- (7) 計画の評価法 など

委員 地域でサロン活動を行っている。保育園とは年に1回交流の場を持ち、小学校とは子ども囲碁教室という形で関わりを持っており、子どもをターゲットにした活動はしやすい。ただし、サロン活動には元気な高齢者が多く来られるものの、支援を必要とする人や認知症の人などと関わっていない。何かヒントはないだろうか。

副委員長 災害時の避難訓練を行うというのも一つの方法。その中で要支援の方の情報を共有してサロン活動に誘えると、そうした方との関係が作られてくる。また、サロンに来ている元気な方と関係を途切れさせないのも大事。来られなくなった時に訪問し、たとえば買い物などに困っているなどの問題があればどうしていくか話し合える地域にしていけるとよい。

子ども向けの活動も一緒にできるとPTAなどと繋がって継続しやすい。高齢者のみの活動だと活動者の世代交代が進みにくいので、そうした層と繋がる活動になるとよい。

## 9. 計画策定の流れと地域ニーズ把握の方法について

- ★ 事務局より資料番号4「計画策定の流れと地域ニーズ把握の方法について」に基づき説明

委員 ニーズ把握の方法で円卓会議との連携という考えが示されたが、例えば六小地区は自治会連合会のような形にもなっているが、全ての自治会が入っているわけではないと聞いているし、そもそも自治会に入っていない人もいる。円卓会議を中心に考えてしまうと、そうした人たちの声が届きにくくなってしまっているのではないかと。

事務局 円卓会議の形は一樣ではないので、個々の円卓会議であったり清瀬市の担当課と協議をしていきたいと考えている。指摘のとおり既存の円卓会議が中心になると参加しにくい層の方もいるのも確かと思う。現段階の考えであるが、新しい区割りで実施していく中で現在の円卓会議に関わっている人にもできるだけ参加してもらいつつ、新しい層の方が加われば良いと考えている。

委員 そうすると万遍なく情報を集める方法は模索中ということでしょうか。

事務局 模索中ということになる。

委員 他地域では社協で小学校区の活動を立ち上げ、それとは別に行政の計画に基づき「ひろば」という地域の場が作られた所がある。住民からすると同じような場が二つあり非効率という声がある。自治会連合会なり円卓会議を基盤にできるところは共に行えれば良いし、考え方が異なるようであれば別に考えて連

携という形でも良いかと思う。

高齢化率が高く自治会加入率が低い清瀬の中で、地域での支えあいを進めるという考えを進めていくには、地域懇談会の実施方法が重要になる。ただし、今の懇談会の考え方だとこれまでの懇談会の域を出ていない気がし、参加する人も変わらないのでないか。もう少し違った層の方が参加する仕掛けが必要。支えられる側と支える側が分かち合えるような形になると良い。例えば、それぞれの地域でどういう活動があるか、「少年サッカーや野球」「お母さんたちの音楽グループ」など、これまで社協とあまり関わりのなかった層の人たちの発表の場、フリーマーケット、地場野菜の販売などと併せて参加しやすい工夫などを考えていけると良い。

委員 ニーズ調査は、前は行政が行ったアンケートのみであったのか。今回は関係者からのニーズ把握という考えでいるということでしょうか。

事務局 そのように考えている。

委員 関係者の捉えていることと当事者の思いというのは、どうしても誤差が生じる。学校単位でコミュニティを捉えるという考え方は以前からあるし悪くないとは思いますが、学校を身近に感じない。学校の形が私の子供のころから変わってきていて、以前は盆踊りのようなものがあったり自由に出入りできていたのがそうではなくなった。なんとなく遠い存在のところへ本当に孤立し支援を必要としている人は関わらない。そうした来られない層の人たちの人に対し、関係者を通じてアンケート調査などができると良い。

委員長 3人の委員から貴重な意見をもらった。ニーズ把握の方法はこの計画策定でも肝になる部分と思われるが、第2回の委員会で改めて決めていくという方法でもスケジュール的には間に合うのだろうか。

事務局 次回の委員会では調査票の内容、懇談会の実施方法などを最終的に詰めて実施に移ればと考えていたところ。ニーズ調査の対象や懇談会の内容については次回のところで改めて考えられと思う。しかし、懇談会の地区割りなどは、広報や関係者との調整もあるので次回の前には考え方を整理しておきたい。

委員 これまでの計画は、市全体に対して社協がどんな事業を行っていくかが中心であったが、今回は小地域ごとの活動を作っていくことを社協の計画とし、それを支援していくことをキータイトルにするというのも一つの考えかと思う。中にはそうした活動に移れない地域もあるかと思うが、できなければ時間はかかっても改めて問題を整理し取り組んでいくのも面白いかと思う。

副委員長 具体的な活動は地域の人が決めていくというのは大事。まず話し合っていける場を作っていくことが必要。当事者の声を聞くというのも大事な視点。行政計画でも把握している部分があるので、行政計画などの既存の調査では何が漏れているかなどを掴んで聞く必要がある。当事者の声を聞くとすれば地域の方が個別に関わるなど丁寧な対応が求められる。当事者のグループがあれば代表の方にヒアリングするという方法もある。福祉教育のような形と併せ、計画と同時進行で当事者に発表してもらおう場を作り地域の人に当事者の問題を聞いてもらうというやり方もある。事務局には色々な方法を検討してもらいたい。

委員 円卓会議と同じような規模で異なる地域割りで懇談会を実施していこうというような説明に感ずる。「地域かわらばん」も六小円卓で作っている「うめのたけニュース」と違う区割りで作っているだけのように思う。区割りについてはもう少し考えたほうがよい。

サロンマップには30か所以上掲載されているが、それぞれを回って懇談会をやるというのも良いのでないか。数は多いが比較的簡単に話を聞くことができ、既存の区割りとは違う形で考えることもできる。

委員 ニーズ把握をするために当事者の声を聞くにあたっては、周囲に勇気を出さないとなかなか発言できない層の人もある。小学校の集まりなどで人を集めようとするとき、「出てこない人はけしからん」という考えが出てくる。出てこれない人にも事情があるわけで、円卓会議にせよ地域単位でそうした声を聞くときに当事者が安心して話すことができるだろうか。当事者の声を聞く際は安全に話せる環境を企画側が配慮する必要があるので考えてもらいたい。

委員長 事務局のほうへ次の委員会の前までに、委員の皆さんが意見を事務局に寄せることはできないか。

事務局 次の委員会まで待っていては時間が経ちすぎてしまうので、5月半ばくらいまでの期間で区切って、改めて意見を募る文書を皆さんに出したい。今日の事務局提案の方法がすべてとは考えておらず、各委員が出された視点は重要と考えている。当事者からの声を聞く場も関係者を通じて把握するか、別に安全な発言の場を設けるのがいいのかも検討したい。

委員 意見を寄せるにあたってはメーリングリストのようなものを作ってはどうか。他の方の意見を聞くことができるし、この委員会に来なくても意見交換ができるのでないか。

事務局 メーリングリストは皆さんのメール環境などを把握してから判断したい。

委員長 事務局としては5月の何日くらいまでに意見集約できればと考えているか。

事務局 5月15日くらいを目途に考えたい。

委員長 みなさんメーリングリストはどう考えるか。メール環境もそうだし、そうしたやり取りが苦手という人もいるのかなとも思うが。

委員 パソコンやスマートフォンでメールを確認する環境にないので、自身に関しては郵送で送ってもらえれば他の方はそうした方法をとってもらい構わない。

委員長 メーリングリストは、そちらで意見が深まりすぎると、加わりにくい人が知らない部分が出てくるのは好ましくない。事務局が文書でやり取ってもらうのが良い。

委員 メーリングリストはやらない。ある時自分のメールアドレスが他に漏れて大変な目に遭ったことがある。復旧に数万円の費用がかかった。

委員長 セキュリティの面でも問題があるので今回は見送ることとしたい。

では、今の時点では5月15日までにニーズ把握の方法について事務局に意見を寄せてもらうこととし、事務局は大変かと思うが、皆さんからの意見はまた各委員に戻してもらいたい。

内容は、円卓会議との連携を含め懇談会を実施するにあたっての区割りと当

事者の声をどう把握していくかということなどについて意見をもらいたい。

今回の委員会の議事は以上とし、事務局にお返ししたい。

## 10. その他

事務局 次回の委員会は6月22日（月）だが、時間については未定。決まり次第改めてご連絡したい。ニーズ把握の方法については4月30日ごろになると思うが、皆さんに文書で依頼し、5月15日までに回答いただくようお願いしたい。

## 11. 閉会

社会福祉協議会常務理事より

\*\*\*\*\*

### 第1回委員会の決定事項

1. 委員長：赤川都委員 副委員長：菱沼幹男委員
2. 委員会の傍聴：原則公開とする
  - (1) 概ね5席程度まで
  - (2) 議事の進行に支障をきたす恐れのある方は入場を制限する
  - (3) 議事の進行を妨げたり注意に応じない方は退席勧告を行う
3. 会議概要の公開
  - (1) 社会福祉協議会のホームページで公開
  - (2) 概要は、発言者の氏名を伏せて記録化し、地区語録とはせず常体により表記する
4. ニーズ把握の方法について
  - (1) 5月15日までに各委員から意見を寄せる
    - ①地域懇談会の実施の考え方（区割りなどを中心に）
    - ②当事者の声の把握方法